

## 総合講義（Ⅰ）

コーディネーター：口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野 佐藤和朗教授  
 ：医療工学講座 武本真治教授  
 ：解剖学講座 機能形態学分野 藤原尚樹教授  
 担当講座（分野）：歯学部専門教育担当教員

第5学年 前期・後期

	講義	演習
前期	70.0時間	26.0時間
後期	70.0時間	31.0時間

### 教育成果（アウトカム）

臨床実習において診療参加型実習を実践している中で、科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践するために、歯科医学臨床に直結する内容で今までに学んだ専門分野の知識を振り返り、知識と技能の融合を行う。（ディプロマ・ポリシー：5、8）

### 事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。第4学年までに修了している各系統講義で用いた学習資料（教科書、レジメ等）の該当項目に関して、予め事前学習を行った上で、講義に出席すること。講義終了後は、教科書や事前学習教材を利用し事後学習を必ず行うこと。

### 特記事項・その他

講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。事前および事後に当該科目のDESS演習を活用する。同日受験総合試験（第6年生総合試験）では、卒業まで見据えて個人に不足している知識の確認を行う。

### 講義日程

【必修試験①解説&必修講義（3月31日～4月3日）、必修試験②（4月9日）、必修試験③（4月22日）】

1限：8:40～9:40、2限：9:50～10:50、3限：11:00～12:00、4限：13:00～14:00、

5限：14:10～15:10、6限15:20～16:20

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
3月30日 (月) 午後		必修試験①	
3月31日 (火)  午前-1	藤原尚樹教授 (機能形態学)	肉眼解剖学・歯の解剖学の 基本的内容のまとめ1 必修問題に必要な肉眼解剖学と歯の解剖学について体系的に整理・理解する。	1. 肉眼解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 2. 歯の解剖学領域に必要な基本的項目を列挙し、説明できる。 [E-2-1)-②③⑥⑪, E-2-2)-⑥, E-3-1)-②] 事前学習：必修試験の該当領域およびDESSの類似問題を元にまとめノートを作成しておくこと。講義でその問題及び関連事項についてフィードバックする。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
3月31日 (火)  午前-2	大津圭史准教授 (発生生物・再生 医学)	<b>組織・発生学に関わる生命科学の基本領域・のまとめ</b> 組織・発生学の重要領域を確認し、適切な対策を立てることができるようになる。	1. 組織・発生学に関わる生命科学の基本重要領域について説明できる。 2. 組織・発生学領域における自分自身の弱点を認識し、自分にあった勉強法を見つけることができる。 [E-2-2)-①、E-2-3)-①] ICT 端末を持参すること。 事前学習：事前に配布したテキストの必要な項目に目を通しておくこと。また問題集については各自で解答して理解不足の点を抽出しておくこと。
3月31日 (火)  午前-3	成田欣弥講師 (病態生理学)	<b>生理学領域の基本的内容 1</b> 生理学領域の基本的な内容について、統合的かつ体系的に整理、理解できるようになる。	1. 生理学領域の基本的な内容について整理して確認できる。 [C-3-4)-(4)-①~③、C-3-4)-(5)-②~④、⑦~⑨、C-3-4)-(9)-①②] 事前学習：生理学の基本的事項について、1・2年次の生理学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
3月31日 (火)  午前-4	帖佐直幸准教授 (細胞情報科学)	<b>生化学領域の必修知識</b> 生化学の重要項目ならびに唾液の成分について理解する。	1. 歯科医師として必要な生化学領域の必修知識を理解する。 2. 唾液成分の由来や機能について説明できる。 [C-1-1)、C-2-1)、E-2-2)] DESS 演習の準備をしておくこと。 事前学習：唾液成分について、5年次の総合講義 I で使用したレジメに目を通して講義に臨むこと。
3月31日 (火)  午後-1	岸光男教授 (予防歯科学)	<b>予防歯科必修試験①解説</b> 必修問題に必要な社会歯科学、公衆衛生学、口腔衛生学の項目を列挙できる。	1. 必修問題に特異的な出題基準を列挙できるようになる。 2. 必修問題を通して一般、臨床問題に共通する基礎的知識を把握できるようになる。 [A-1、A-2、A-5、A-6、B-1~4] 事前学習：必修試験①の予防歯科関連問題を想起して学習課題を整理しておくこと。講義中随時知識確認のための質問とフィードバックを行う。
3月31日 (水)  午後-2	間山寿代講師 (歯科矯正学)	<b>歯科矯正領域の必修問題</b> 歯科矯正学領域の基本的事項について理解する。	1. 試験解説を通して矯正領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-4-1)-(1)-①~⑦] 事前学習：歯科矯正学の必修問題についてまとめ、各自の弱点ならびに疑問点を抽出すること。
3月31日 (火)  午後-3	佐々木実教授 (分子微生物学)	<b>微生物学・免疫学必修 1 (必修講義)</b> 歯科医師として習得すべき微生物学・免疫学の基本的な知識や特に重要な必修項目を理解する。	1. 微生物学・免疫学の歴史と発展について説明できる。 2. 院内感染対策について説明できる。 3. 生体の免疫機構について説明できる。 4. 口腔の生態系について説明できる。 [A-5-3)-①、②、C-3-1)-①~③、⑥、C-3-2)-①~⑦、E-2-4)-(9)-②③、E-1-4)-⑥⑧、E-2-4)-(3)-①、E-3-2)-①~⑤] ディスカッション方式の講義を行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行う。 事前学習：過去 5 年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する必修問題について学習しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
3月31日 (火) 午後-4	久慈昭慶准教授 (障害者歯科学)	<b>障害者歯科領域の歯科医師として必要な知識修得とその勉強法</b> 歯科医師として必要な障害者歯科領域の知識を修得することができる。	1. 障害者歯科学の重要領域を説明できる。 2. 歯科医師として必要な知識を修得するために自分にあった勉強法での年間計画を立案できる。 [B-2-2)-①、E-5-2)-①~④] 事前学習：教科書、ノート、レジメですでに学んだことを確認して講義に臨むこと。
4月1日(水) 午前-1	千葉俊美教授 (関連医学)	<b>内科学領域必修問題1</b> 内科学の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して内科領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-6-①~③] 事後学習：講義に関する国家試験問題を解きまとめること。
4月1日(水) 午前-2	入江太朗教授 (病態解析学)	<b>必修試験1解説講義</b> 病理学総論の重要項目について体系的に整理・理解する。	1. 歯科医師として必要な病理学領域の必修知識を説明できる。 2. 循環障害、増殖と修復について説明できる。 [C-5-1)~3)] ディスカッション方式の講義を行う。講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：スタンダード病理学 p74-109, p42-60 を読み、疑問点を抽出しておくこと。(60分を要する)
4月1日(水) 午前-3	佐藤健一教授 (歯科麻酔学)	<b>歯科麻酔領域必修問題1</b> 歯科麻酔の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して歯科麻酔領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-1-4)、E-1-6)、E-6-②] 事前学習：国家試験出題基準の歯科麻酔領域の必修部分を読んでくること。
4月1日(水) 午後-1	長谷部智之助教 (う蝕治療学)	<b>修復領域必修問題</b> 歯内の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して修復領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-3-3)-(2)] 事前学習：国家試験出題基準の修復領域必修部分を読んでくること。
4月1日(水) 午後-2	長谷部智之助教 (う蝕治療学)	<b>歯内領域必修問題</b> 修復の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して歯内領域の必修問題を解くことができるようになる。 [E-3-3)-(2)] 事前学習：国家試験出題基準の歯内領域必修部分を読んでくること。
4月1日(水) 午後-3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学)	<b>総合領域必修問題</b> 総合歯科の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して総合領域の必修問題を解くことができるようになる。 [A-4、A-5] 事前学習：国家試験出題基準の総合領域必修部分を読んでくること。
4月1日(水) 午後-4	工藤義之准教授 (う蝕治療学)	<b>一般教養問題</b> 一般教養領域の必修領域について理解する。	1. 試験解説を通して一般教養領域の必修問題を解くことができるようになる。 [A-9] DESS 演習の準備をしておくこと。 事前学習：国家試験出題基準の一般教養領域必修部分を読んでくること。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月2日(木) 午前-1	小林琢也教授 (摂食嚥下・ 口腔リハビリ テーション学 分野)	<b>補綴領域必修解説①</b> 有床義歯学の必修領域に ついて理解する。	1. 試験解説を通して有床義歯学領域の必修問 題を解くことができるようになる。 [E-3-4)-(2)] ディスカッション方式の講義を行う。講義の 途中あるいは最後にクリッカーを活用して学 生の理解度を逐次確認する。 事前学習：講義内容について教科書と4年次 に使用したレジメ、講義ノートに目を通して 講義に臨むこと。
4月2日 (木) 午前-2,3	齋藤裕美子助教 (補綴・イン プラント学)	<b>クラウンブリッジ補綴学 領域必修問題</b> クラウンブリッジ補綴学 領域の必修問題について 理解する。	1. 試験解説を通してクラウンブリッジ補綴学 領域の必修問題を解くことができるように なる。 [E-3-4)-(1)]
4月2日(木) 午後-1	宮本郁也教授 (口腔外科学)	<b>口腔外科領域必修問題1</b> 口腔外科領域の必修問題 について理解する	1. 必修試験①の試験解説を通して口腔外科領 域の必修問題を解くことができるように なる。
4月2日(木) 午後-2	泉澤充准教授 (歯科放射線学)	<b>放射線領域の基本1</b> 放射線領域の基本的な項 目について修得する。	1. 放射線領域の基本的な項目を列挙し、説明 できる。 [E-1-2)-①~⑨]
4月2日(木) 午後-3	熊谷章子准教 授 (法歯学・災 害口腔医学)	<b>法歯学・災害口腔医学必修 1</b> 法歯学・災害口腔医学の必 修領域について理解する。	1. 試験解説講義を通して法歯学・災害口腔医 学の基本的事項を列挙し説明できる。 [B-2-2)-⑥⑨、B-2-3)-①②] 事前学習：必修問題で出題された内容を講義 ノートや教科書で確認する。
4月3日(金) 午前-1	武本真治教授 (医療工学)	<b>歯科理工学必修試験解説 講義1</b> 歯科理工学領域の基本的 事項について理解する。	1. 歯科理工学領域の基本的知識を説明できる。 [D-1、D-2] 講義中随時知識確認のための質問とフィード バックを行う。 事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタ ンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジ メ、講義ノートの必修試験1で出題された問 題に関連する項目に目を通して講義に臨むこ と。
4月3日(金) 午前-2	田村晴希講師 (病態制御学)	<b>薬理学必修知識1</b> 歯科医師として習得すべ き薬理学の基本的な事項 について理解する。	1. 試験解説を通して薬理学領域の必修問題を 解くことができるようになる。 [C-6-1)-①~③、C-6-2)-①~⑤、 C-6-3)-①②、C-6-4)-①②] 事前学習：過去5年間の国家試験の薬理学に関連 する必修問題について学習しておくこと。
4月3日(金) 午前-3	八重柏隆教授 (歯周療法学)	<b>歯周領域必修問題</b> 歯周領域の必修問題につ いて理解する。	1. 試験解説を通して歯周領域の必修問題を解 くことができる。 [E-3-2)-③④、E-3-3)-(3)-①~⑤] 事前学習：歯周について3年次に使用したレジメ、 講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
4月3日(金) 午前-4	氏家隼人助教 (小児歯科学)	<b>小児歯科学領域必修問題</b> 小児歯科学領域の基本的 事項について理解する。	1. 試験解説を通して小児歯科学領域の必修問題 を解くことができる。 [E-4-2)-①~⑫] 事前学習：過去5年分の小児歯科学領域の必修 問題を確認しておく。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月9日 (木) 午前		必修試験②	
4月22日 (水) 午前		必修試験③	

講義日程 (1 限 : 8:40~9:40、 2 限 : 9:50~10:50、 3 限 : 11:00~12:00、 4 限 : 13:00~14:00、  
5 限 : 14:10~15:10、 6 限 : 15:20~16:20、 7 限 : 16:30~17:30、 8 限 : 17:30~18:30)

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月21日(火) 1 限 (8:40~ 9:40)	病態制御学分野 山田ありさ助教	<b>抗炎症薬</b> 歯科診療を行う上で必要 な抗炎症薬を理解する。	1. 抗炎症薬の作用機序を説明できる。 2. 抗炎症薬の副作用を説明できる。 [C-6-2)-②、C-6-4)-①] 事前学習課題：作用機序と副作用について まとめておくこと。
4月21日(火) 2 限 (9:50~ 10:50)	発生物・再生 医学分野 原田英光教授 大津圭史准教授	<b>上皮総括的理解～その構 造と機能破綻を考える ＜口腔疾患と全身1＞</b> 上皮・結合組織の基本的な 構造・機能とその破綻によ って引き起こされる疾患 との関連を理解できるよ うになる。	1. 上皮の基本的構造が説明できる。 2. 上皮の細胞と細胞間接着装置について説 明できる。 3. 細胞間接着装置に異常を来す疾患を列挙 して、その病因を説明できる。 [C-2-4)-③、C-3-4)-(1)、C-3-4)-(2)-②、 E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤] 事前学習：細胞間接着装置・細胞外基質に関 連した疾患について、最新口腔外科学第5版 を用いて事前に学修しておくこと。
4月21日(火) 3 限 (11:00~ 12:00)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 歯内療法学1 診査・診断</b>	1. 歯内療法に必要な診査法を説明できる。 2. 歯内疾患の診断ができる。 3. 診査に必要な器具と使用方法を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：歯髄疾患の診査診断について、講義 ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、 教科書(医歯薬歯内治療学)にて確認する。
4月21日(火) 7 限 (16:30~ 17:30)	予防歯科学 岸光男教授	<b>予防歯科領域の勉強法</b> 予防歯科領域学習目標と それに対する、勉強法を見 つけることができる。	1. 予防歯科領域に求められる学力の水準を 説明できる。 2. 自分にあった勉強法を見つけることがで きる。 [A-2-1)-①~⑤] 事前学習：必修試験問題の疑問点を抽出し ておくこと。講義中、適宜抽出した疑問点に 関する質疑応答を行う。
4月28日(火) 1 限 (8:40~ 9:40)	口腔外科学分野 大橋祐生講師	<b>悪性腫瘍</b> 顎口腔領域に発生する悪 性腫瘍に関する知識を習 得する。	1. 顎口腔領域の悪性腫瘍の臨床症状を説明 する。 2. 顎口腔領域の悪性腫瘍の治療、予後につ いて説明する。 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版P250 ~296、660~716を読み、疑問点を抽出し ておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月28日(火) 2限(9:50～ 10:50)	補綴・インプラ ント学分野 高橋敏幸講師	<b>有床義歯学1</b> 部分床義歯に必要な知識 を整理して床義歯製作手 法を理解する	1. 部分床義歯の各操作の目的を説明でき る。 2. 部分床義歯製作術式を説明出来る [E-3-4)-(2)-(①～⑭)] 事前学習: 義歯製作における精密印象採得につ いて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジ メ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
4月28日(火) 3限(11:00～ 12:00)	小児歯科学・障 害者歯科学分野 森川和政教授	<b>小児歯科学1</b> 小児の心身の発育 小児の成長発育を理解す る。	1. 小児の年齢を正しく評価できる。 2. 小児の身体的発育を正しく評価できる。 3. 小児の精神発達段階を説明できる。 4. 小児の生理的特徴を理解できる。 [C-3-2)-(④)] 事前学習: 小児の心身の発育について教科 書に目を通して講義に臨むこと。
4月28日(火) 7限(16:30～ 17:30)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 保存修復学1</b> <b>診査・診断</b>	1. 齲蝕の診査法を説明できる。 2. 齲蝕の診断ができる。 3. 急性齲蝕と慢性齲蝕の違いを説明できる。 [E-3-3)-(1)-(②⑤)、E-5-1)-(⑦)] 事前学習: 齲蝕の診査診断について、講義ノー ト、実習書を参照。理解ができない場合は、教 科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
5月12日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態制御学分野 山田ありさ助教	<b>抗腫瘍薬</b> 歯科診療を行う上で必要 な抗腫瘍薬を理解する。	1. 抗腫瘍薬の作用機序を説明できる。 2. 抗腫瘍薬の副作用を説明できる。 [C-6-2)-(②)、C-6-4)-(①)] 事前学習課題: 作用機序と副作用について まとめておくこと。
5月12日(火) 2限(9:50～ 10:50)	病態生理学分野 黒瀬雅之准教授	<b>循環</b> 循環器系の働きを理解す る。	1. 心臓の興奮伝導系を説明できる。 2. 心拍出量と血圧の関係を説明できる。 3. 心不全の病態を説明できる。 [C-3-4)-(4)-(①～③)] 事前学習: 循環について、2年次の生理学で 使用したレジメ、講義ノートに目を通し て講義に臨むこと。
5月12日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科矯正学分野 佐藤和朗教授	<b>矯正歯科学1</b> <b>顎顔面の成長発育</b>	1. 口腔の発生について説明できる。 2. 頭蓋の成長について説明できる。 3. 上顎の成長について説明できる。 4. 下顎の成長について説明できる。 [C-3-2)-(③④)] 事前学習: 歯科矯正学 p14～65 を読み、疑 問点を抽出しておくこと。
5月19日(火) 1限(8:40～ 9:40)	医療工学講座 武本真治教授	<b>印象用材料</b> 歯科臨床で使用する印象 用材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における印象材の選択基準を説 明できる。 2. 印象材の種類とタイプを説明できる。 3. 歯科臨床における印象材の用途を説明で きる。 4. 印象材の成分・組成と硬化機構および性 質説明できる。 [D-1)-(②③)、D-2)-(②)] 事前学習: 2・3年次に使用した教科書(ス タンドアード歯科理工学、新編歯科理工学)、 レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨 むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月19日(火) 2限(9:50～ 10:50)	細胞情報科学分 野 帖佐直幸准教授	<b>唾液の生化学</b> 唾液の成分とその作用に ついて理解する。	1. 唾液の成分を列挙し、その作用を説明で きる。 2. 唾液中の酵素の働きを説明できる。 3. 唾液中の抗菌因子の作用機序を説明できる。 [C-2-4)-①③、C-3-4)-(2)-④⑤] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で 調べて講義に臨むこと。
5月19日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯周療法学分野 八重柏隆教授	<b>歯周病学1(要点1)</b> 歯周領域に求められる演 習問題を理解し、歯周外 科を中心に要点を理解す る。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明 できる。 2. 歯周領域の演習問題が理解できる。 3. 歯周領域の要点を修得できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①～③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨 床歯周病学2版で復習しておく。
5月19日(火) 7限(16:30～ 17:30)	歯科放射線学分 野 泉澤充准教授	<b>CT・MRI・US 検査</b> 顎顔面領域の適切な診断 を行うため、各種診断装 置の原理と適応について 理解する。	1. CT 値、部分容積効果について説明する。 2. 歯科用コーンビーム CT と X 線 CT の画像 形成原理と適応を説明する。 3. CT で用いられる造影撮影の目的と造影剤 使用禁忌を列記する。 4. MRI の画像形成原理と適応について説明 する。 5. MRI で用いられる造影撮影の目的と造影 剤使用禁忌を列記する。 6. 超音波断層法の画像形成原理と適応を説 明する。 7. PET 検査、核種について説明する。 8. シンチグラフィ検査と核種について説明 する。 [E-1-2)-⑤⑨] 事前学習：各種画像診断装置の原理、適応を 事前に学習し、まとめておくこと
5月26日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態解析学分野 入江太朗教授	<b>必修対策：疾病の概念1</b> 病理学総論の疾病の概念 について理解する。	1. 病理学の意義を説明できる。 2. 病理学と臨床医学の関係を説明できる。 3. 内因について説明できる。 4. 外因について説明できる。 5. 病理検査法について説明できる。 6. 細胞診について説明できる。 7. 特殊検査法について説明できる。 8. 内分泌障害について説明できる。 [C-5-1)-①②] 事前学習：スタンダード病理学 p1-13, p64- 73 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
5月26日(火) 2限(9:50～ 10:50)	発生物・再生 医学分野 原田英光教授	<b>結合組織の総括的理解～ その構造と機能破綻を考 える</b> <b>&lt;口腔疾患と全身2&gt;</b> 結合組織の基本的な構 造・機能とその破綻によ って引き起こされる疾患 との関連を理解できるよ うになる。	1. 結合組織の基本的構造が説明できる。 2. 結合組織の細胞成分と細胞外マトリッ クスについて説明できる。 3. 結合組織に異常を来す先天性疾患を列挙 して、その病因を説明できる。 [C-2-4)-③、C-3-4)-(1)、C-3-4)-(2)-②、 E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤] 事前学習：細胞外基質に関連した疾患につ いて、最新口腔外科学第5版を用いて事前 に学修しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月26日(火) 3限(11:00～ 12:00)	病態生理学分野 黒瀬雅之准教授	<b>腎臓</b> 腎機能の働きを理解する。	1. 腎臓の濾過機能を説明できる。 2. 腎不全の病態を説明できる。 3. 腎不全の症状を説明できる。 [C-3-4)-(10)-①②③、E-6] 事前学習：腎機能・体液調節について、2年次の生理学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
5月26日(火) 7限(16:30～ 17:30)	小児歯科学・障害者歯科学分野 氏家隼人助教	<b>小児歯科学2</b> <b>歯列・咬合の発育</b> 歯列および咬合の発育を歯の交換の観点から理解する。	1. 切歯交換期の特徴を説明できる。 2. 側方歯群交換期の特徴を説明できる。 [E-2-3)-③] 事前学習：歯列・咬合の発育(歯の交換)について教科書に目を通して講義に臨むこと。
6月2日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態解析学分野 入江太朗教授	<b>必修対策：疾病の概念2</b> 病理学総論の疾病の概念について理解する。	1. 循環障害について説明できる。 [C-5-4] 事前学習：スタンダード病理学 p74-109 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月2日(火) 2限(9:50～ 10:50)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 歯内療法学2</b> <b>歯髄炎</b>	1. 炎症の病態を説明できる。 2. 歯髄腔の解剖学的特徴を説明できる。 3. 麻酔抜髄法の術式を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：歯髄炎について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬歯内治療学)にて確認する。
6月2日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科麻酔学分野 佐藤健一教授	<b>歯科麻酔学1</b> <b>局所麻酔法</b> 局所麻酔法を学ぶことで歯科治療時の局所麻酔の重要性を理解することができる。	1. 局所麻酔の目的を説明できる。 2. 局所麻酔の特徴を説明できる。 3. 局所麻酔添加薬(血管収縮薬)を説明できる。 [E-1-4)-(3)] 事前学習：臨床歯科麻酔学第5版第4章1、第5章4を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月2日(火) 7限(16:30～ 17:30)	小児歯科学・障害者歯科学分野 久慈昭慶准教授	<b>障がい者1</b> 総論復習	1. 障害者歯科の社会的問題、行動調節、歯科治療の工夫を確認し、理解する。 [B-2-2)-①、E-5-2)-①～④、F-3-7)-②]
6月9日(火) 1限(8:40～ 9:40)	分子微生物学分野 下山佑講師	<b>微生物学総論</b> 病原微生物の生物分類学上の位置づけおよびその性状を理解する。	1. 微生物の構造・性状について説明できる。 2. 感染の概念と感染症について説明できる。 3. 宿主-寄生体相互作用について説明できる。 [C-3-1)-①②、E-2-4)-(3)-①、E-2-4)-(9)-②] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題を学習しておく。
6月9日(火) 2限(9:50～ 10:50)	発生生物・再生医学分野 原田英光教授	<b>顎骨の発生・成長～その破綻による先天性疾患を考える</b> <b>&lt;口腔疾患と全身3&gt;</b> 歯と顎骨の正常発生と加齢にともなう変化、異常について説明できるようになる。	1. 骨の発生について説明できる。 2. 顎骨の発生について説明できる。 3. 大理石病、鎖骨頭蓋異形成症などの全身的な症状とともに、顎顔面に異常が見られる疾患やその原因について組織学的知識と連携させて説明できる。 [C-3-2)-①、C-3-3)-②、C-3-4)-(2)-④⑤、E-2-3)-①④、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤⑥] 事前学習：最新口腔外科学第5版と小児の口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常についての疾患を事前に学修しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月9日(火) 3限(11:00～ 12:00)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 保存修復学 2</b> <b>齲蝕</b>	1. 齲蝕歯質において除去すべき歯質を説明できる。 2. 齲蝕において残すべき歯質を説明できる。 3. 齲蝕検知液について説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-(7)] 事前学習：齲蝕の診査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
6月16日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態制御学分野 田村晴希講師	<b>薬理学総論</b> 歯科診療を行う上で必要な薬理学的知識を理解する。	1. 薬物動態を説明できる。 2. 副作用・相互作用を説明できる。 [C-6-2)-(5)、C-6-3)-(2)、C-6-4)-(1)] 事前学習課題：総論の要点についてまとめておくこと。
6月16日(火) 2限(9:50～ 10:50)	口腔外科学分野 宮本郁也教授	<b>炎症</b> 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を習得する。	1. 顎口腔の炎症の症状、診断法、治療法を説明する。 2. 歯性感染症の概念と感染経路を説明する。 3. 顎骨骨髓炎の症状、経過、治療法について説明する。 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版P125～162を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月16日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科矯正学分野 佐藤和朗教授	<b>矯正歯科学 2</b> <b>矯正治療における診断</b>	1. 口腔模型について説明できる。 2. セットアップ模型について説明できる。 3. エックス線検査について説明できる。 4. 機能検査について説明できる。 [E-4-1)-(3)] 事前学習：歯科矯正学 p145～174を読み、疑問点を抽出しておくこと。
6月16日(火) 7限(16:30～ 17:30)	歯周療法学分野 佐々木大輔准教授	<b>歯周病学 2 (要点 2)</b> 歯周領域に求められる演習問題を理解し、歯周外科を中心に要点を理解する	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題が理解できる。 3. 歯周領域の要点を修得できる。 [E-3-2)-(1③④、E-3-3)-(3)-①②③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学2版で復習しておく。
6月23日(火) 1限(8:40～ 9:40)	分子微生物学分野 下山佑講師	<b>免疫学</b> 免疫応答による生体防御の仕組みを理解する。	1. 免疫応答に関与する器官と細胞について説明できる。 2. 自然免疫と獲得免疫について説明できる。 3. 主なサイトカインとその生物活性について説明できる。 4. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 5. 各過敏症の発症メカニズムと代表的な疾患について説明できる。 6. 主な免疫不全症の発症機序と疾患について説明できる。 7. 自己免疫疾患発現に関与する因子と代表的な自己免疫疾患について説明できる。 [C-3-2)-(1～7)、E-2-4)-(9)-③] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月23日(火) 2限(9:50～ 10:50)	細胞情報科学分 野 帖佐直幸准教授	<b>ホルモンの生化学</b> ホルモンの構造と作用機 序を理解する。	1. 細胞膜受容体と細胞内受容体について説 明できる。 2. ペプチドホルモンとステロイドホルモ ンの作用機構を説明できる。 3. 各種プロテインキナーゼによる細胞内情 報伝達機構を概説できる。 [C-2-4)-②、C-3-4)-(9)-①] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で 調べて講義に臨むこと。
6月23日(火) 3限(11:00～ 12:00)	摂食嚥下・口腔 リハビリテーシ ョン学分野 小林琢也教授	<b>摂食嚥下リハビリテーシ ョン①</b> 摂食嚥下障害の診断と検 査法について理解する。	1. スクリーニングテストについて説明出来る。 2. 嚥下機能の精密検査について説明出来る。 3. 間接訓練によるリハビリテーションにつ いて説明出来る。 4. 直接訓練によるリハビリテーションにつ いて説明できる。 [E-2-4)-(11)-②、E-5-1)-⑤～⑩] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビ リテーション学 p 124～156、58～67 を読み、 講義に臨むこと。
6月23日(火) 7限(16:30～ 17:30)	歯科麻酔学分野 佐藤健一教授	<b>歯科麻酔学 2 麻酔の偶発症</b> 局所麻酔時の偶発症とそ のメカニズムを学ぶこと で偶発症の対処法を理解 することができる。	1. 局所麻酔および歯科治療時の全身的偶発 症を説明できる。(神経性ショック、過換 気症候群、アナフィラキシー、局所麻酔中 毒、血管収縮薬に対する反応、メトヘモグ ロビン血症) 2. ショックを説明できる。 [E-1-4)-(3)-⑤、C-5-4)-(6)] 事前学習：臨床歯科麻酔学第5版 第5章 5- 2、第5章 12-2 を読み、疑問点を抽出して おくこと。
6月30日(火) 1限(8:40～ 9:40)	分子微生物学分 野 下山佑講師	<b>微生物学各論</b> 病原微生物による感染症 およびその病原因子につ いて理解する。	1. 感染の概念と感染症について説明できる。 2. 病原微生物による感染症・病原因子につ いて説明できる。 [C-3-1)-①②、E-2-4)-(3)-①、 E-2-4)-(9)-②] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物 学・免疫学に関連する問題について学習し ておくこと。
6月30日(火) 2限(9:50～ 10:50)	病態生理学分野 黒瀬雅之准教授	<b>顎顔面の感覚(味覚)</b> 特殊感覚の1つである味 覚について理解する。	1. 味覚の受容機構を説明できる。 2. 味覚の伝導路を説明できる。 [E-2-2)-⑩、C-3-4)-(6)-①] 事前学習：体性感覚・味覚について、2年次 の生理学で使用したレジメ、講義ノートに目 を通して講義に臨むこと。
6月30日(火) 3限(11:00～ 12:00)	補綴・インプラ ント学分野 高藤恭子助教	<b>口腔インプラント学 1</b> インプラント外科につ いて治療の流れを理解す る。	1. インプラント治療の審査診断を理解する。 2. インプラント1次手術および2次手術の 流れを理解する。 3. インプラント外科に必要な器具、装置を理 解する。 [E-3-4)-(3)-①～③⑤] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、 講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月30日(火) 7限(16:30～ 17:20)	外国語学科英語 分野 James Hobbs 教授	Chair side conversation 1 英語圏の患者に対し歯科 治療を行う際に必要なコ ミュニケーション力を習 得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①]
7月7日(火) 1限(8:40～ 9:40)	機能形態学分野 藤原尚樹教授	顎関節の解剖 顎関節の形態を咀嚼様式 から理解する。	1. ヒトの顎関節の特徴を説明できる。 2. 蝶番運動と関連する顎関節の形状を説明 できる。 3. 臼磨運動と関連する顎関節の形状を説明 できる。 4. 前後運動と関連する顎関節の形状を説明 できる。 5. 顎運動と咀嚼筋との関連を説明できる。 [E-2-1)-⑥] 事前学習：顎関節の構造、咀嚼筋の起始・停 止、下顎限界運動についてまとめておくこ と。DESS 演習またはWebClass に提示する歯 科医師国家試験の過去問から関連領域の問 題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
7月7日(火) 2限(9:50～ 10:50)	予防歯科学 岸光男教授	予防歯科学 1 疫学・EBM 疫学の基本的考え方を学 ぶことで、診療、地域補年 に対する論理的な方略を 策定できるようになる。	1. 疫学の研究方法を列挙できる。 2. 歯科領域の疫学調査方法を概説できる。 3. 疫学指標を算出できる。 4. EBM の概念を概説できる。 [B-4-1)-①③④] 事前学習：2年時衛生・公衆衛生学の教科 書、資料の該当範囲を通読しておくこと。 講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
7月7日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科口腔先進医療 開発センター 角保徳センター長	特別講義 超高齢社会の将来と歯科 医療の将来展望	1. 超高齢社会における歯科医療について説 明できる。
7月7日(火) 7限(16:30～ 17:20)	外国語学科英語 分野 James Hobbs 教授	Chair side conversation 2 英語圏の患者に対し歯科 治療を行う際に必要なコ ミュニケーション力を習 得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①]
7月14日(火) 1限(8:40～ 9:40)	機能形態学分野 藤原尚樹教授	咬合と歯の形態 咬合について歯の形態と の関係から理解する。	1. 前歯部の上顎・下顎の歯の形態的特徴か ら咬合について説明できる。 2. 臼歯部の上顎・下顎の形態的特徴から咬 合について説明できる。 3. 歯の排列の特徴について説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：各歯の解剖学的特徴についてま とめておくこと。DESS 演習またはWebClass に提示する歯科医師国家試験の過去問から 関連領域の問題を解き、必要な知識をま とめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
7月14日(火) 2限(9:50～ 10:50)	医療工学講座 武本真治教授	<b>歯冠修復用材料</b> 歯科臨床に応用する歯冠 修復材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における歯冠修復材の選択基準 を説明できる。 2. 歯冠修復材の種類を説明できる。 3. 歯冠修復材の成分および性質を説明できる。 4. 歯冠修復材の取り扱い上の注意点を説明 できる。 [D-1-②、D-2-①②] 事前学習:2・3年次に使用した教科書(スタン ダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、 講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
7月14日(火) 3限(11:00～ 12:00)	補綴・インプラ ント学分野 田邊憲昌准教授	<b>冠橋義歯学1</b> <b>クラウン・ブリッジの治 療の流れ</b> クラウン・ブリッジの臨床 の手順について理解する。	1. 診療室と技工室での治療の流れを理解する。 2. 診療室と技工室で使用する機器や材料の 特性を理解する。 [E-3-4)-(1)-①～⑬] ディスカッション方式を取り入れた講義を 行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習:クラウン・ブリッジ補綴学で使用 したレジメ、講義ノートに目を通して講義 に臨むこと。
7月21日(火) 7限(16:30～ 17:30)	補綴・インプラ ント学分野 高橋敏幸講師	<b>有床義歯学2</b> 全部床義歯に必要な知識 を整理して床義歯製作手 法を理解する	1. 全部床義歯の各操作の目的を説明出来る。 2. 全部床義歯製作術式を説明出来る。 [E-3-4)-(2)-①～⑭] 事前学習:義歯製作における精密印象採得につ いて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジ メ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
8月18日(火) 1限(8:40～ 9:40)	補綴・インプラ ント学分野 齊藤裕美子助教	<b>冠橋義歯学2</b> <b>クラウンの口腔内試適・ 調整</b> クラウン・ブリッジの口 腔内試適と調整について 理解する。	1. クラウンの口腔内試適・調整に使用する 機器と検査法を説明できる。 2. クラウンの口腔内試適・調整の臨床の手 順を説明できる。 [E-3-4)-(1)-⑩] ディスカッション方式を取り入れた講義を 行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習:クラウン・ブリッジ補綴学で使用 したレジメ、講義ノートに目を通して講義 に臨むこと。
8月18日(火) 2限(9:50～ 10:50)	口腔外科学分野 宮本郁也教授	<b>嚢胞</b> 口腔顎顔面領域に発生す る嚢胞の分類、発生病因、 診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を説明 する。 2. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞の治療 法を説明する。 事前学習:口腔外科学第3版医歯薬出版P297 ～326を読み、疑問点を抽出しておくこと。
8月18日(火) 3限(11:00～ 12:00)	補綴・インプラ ント学分野 鬼原英道教授	<b>有床義歯学3</b> 床義歯製作に必要な口腔 の解剖と精密印象採得を 理解する。	1. 義歯製作に必要な解剖学的ラウンドマー クと圧負担域を説明出来る。 2. 筋圧形成に係わる筋を説明出来る。 3. 精密印象の目的と方法および手順を説明 出来る。 [E-3-4)-(2)-⑤⑥⑩⑫] 事前学習:義歯製作における精密印象採得につ いて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジ メ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月1日(火) 1限(8:40～ 9:40)	予防歯科学分野 岸光男教授	<b>予防歯科学2 医療関連法規</b> 医療関連法規を学ぶこと で、臨床における歯科医師 の役割を理解することが できる。	1. 医療法を概説できる。 2. 医療計画を概説できる。 3. 医療機関の種類を列挙できる。 4. 歯科医師法を概説できる。 5. 歯科衛生士法を概説できる。 [A-7-1)-②、B-2-1)-①～③] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料 の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適 宜課題の呈示と質疑応答を行う。
9月1日(火) 7限(16:30～ 17:30)	法歯学・災害口 腔医学分野 熊谷章子准教授	<b>災害発生時の病院対応</b> 発災直後の歯科医師とし ての適切な対応を身につ ける。	1. 歯科治療中に発生した災害に対応できる。 2. 発災後の適切な患者誘導ができる。 3. 頭頸部領域の災害傷病者に対応できる。 4. ロールプレーイングを取り入れて、発災 後超急性期から急性期での歯科医師の役 割の理解を深める。 [A-7-1)-①、B-2-2)-⑨] 事前学習：「災害歯科医学」32～43頁を読み、 疑問点をまとめておくこと。
9月8日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態制御学分野 山田ありさ助教	<b>局所麻酔薬・全身管理</b> 歯科診療を行う上で必要 な局所麻酔薬と偶発症の 際に用いる主な薬物を理 解する。	1. 局所麻酔薬の分類と作用機序を説明できる。 2. 偶発症の際に用いる主な薬物とその薬理 作用を説明できる。 [E-1-4)-(3)-②、E-1-6)-③] 事前学習課題：作用機序と副作用について まとめておくこと。
9月8日(火) 2限(9:50～ 10:50)	補綴・インプラ ント学分野 高藤恭子助教	<b>口腔インプラント学2 インプラント補綴につ いて治療の流れを理解する。</b>	1. インプラント補綴処置の流れを理解する。 2. インプラント補綴に必要な器具、装置を 理解する。 [E-3-4)-(3)-⑥] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、 講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
9月8日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科麻酔学分野 四戸豊講師	<b>歯科麻酔学3 精神鎮静法</b> 精神鎮静法の概念、各種精 神鎮静法を学ぶことで歯 科治療時における精神鎮 静法の必要性が理解でき る。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適応、禁忌、種 類、実施法を説明できる。 2. 吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法を説明できる。 4. 静脈内鎮静法の使用薬剤を説明できる。 [E-1-(4)-(2)] 事前学習：臨床歯科麻酔学第5版 第6章 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
9月15日(火) 1限(8:40～ 9:40)	補綴・インプラ ント学分野 齊藤裕美子助教	<b>冠橋義歯学3 クラウン・ブリッジの接着</b> クラウン・ブリッジ接着に ついて理解する。	1. クラウン・ブリッジ補綴に使用する材料 と表面処理について理解する。 2. セメントの種類と特徴を理解する。 [E-3-4)-(1)-⑩] ディスカッション方式を取り入れた講義を 行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習：クラウン・ブリッジ補綴学で使 用したレジメ、講義ノートに目を通して講 義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月15日(火) 2限(9:50～ 10:50)	発生物学・再生 医学分野 原田英光教授	<b>歯の発生からみた歯の構造の正常と異常 I</b> 歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようになる。 歯の先天的疾患について説明できるようになる。	1. 歯胚を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯の発生の過程について説明できる 3. 歯の数や歯冠の形態などの遺伝子疾患に関わる病因について説明できる。 [E-2-3)-①、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤、E-3-1)-①、E-3-2)-①、E-4-2)-①] 事前学習：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学 4 版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。
9月15日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯周療法学分野 村井治助教	<b>歯周病学 3 (要点 3)</b> 歯周領域に求められる演習問題を理解し、歯周外科を中心に要点を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明できる。 2. 歯周領域の演習問題が理解できる。 3. 歯周領域の要点を修得できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①～③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨床歯周病学2版で復習しておく。
9月15日(火) 7限(16:30～ 17:30)	病態生理学分野 黒瀬雅之准教授	<b>顎顔面の感覚 (痛覚)</b> 体性感覚の1つである痛覚について理解する。	1. 口腔内の感覚受容器の種類と分布を説明できる。 2. 歯痛について説明出来る。 3. 歯根膜感覚について説明出来る。 4. 口腔感覚の伝導路を説明出来る。 [E-2-2)-⑨] 事前学習：顎顔面の感覚について、2年次の生理学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
9月29日(火) 1限(8:40～ 9:40)	歯科矯正学分野 佐藤和朗教授	<b>矯正歯科学 3</b> <b>矯正治療における抜歯</b>	1. 矯正治療における抜歯の目的について説明できる。 2. Tweedの抜歯基準について説明できる。 3. Tooth size ratioについて説明できる。 4. 矯正治療における固定について説明できる。 [E-4-1)-③] 事前学習：歯科矯正学 p175～181を読み、疑問点を抽出しておくこと。
9月29日(火) 2限(9:50～ 10:50)	細胞情報科学分野 帖佐直幸准教授	<b>炎症の生化学</b> 炎症を調節する細胞や分子の作用を理解する。	1. 炎症関連細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる 2. 代表的なケミカルメディエーターを列挙し、その作用を説明できる。 3. アラキドン酸カスケードを説明できる。 [C-2-1)-①③、C-5-5)-①②]
9月29日(火) 3限(11:00～ 12:00)	医療工学講座 武本真治教授	<b>成形修復材-コンポジットレジンを中心に</b> レジンに無機質フィラーが配合された複合レジンならびにそれ以外の成形修復材料の構成と特性を学ぶ。	1. 複合レジンの構成、成分を説明できる。 2. 成分モノマーの特徴を説明できる。 3. 補強材としてのフィラーの種類、特徴を説明できる。 [D-1-①、D-2-①] 事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。WebClassに掲載の講義要旨の空欄を講義開始までに補充する。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月20日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態解析学分野 衣斐美歩講師	<b>必修対策：疾病の概念3</b> 病理学総論の疾病の概念 について理解する。	1. 炎症の定義と原因について説明できる。 2. 炎症反応のカスケードについて説明できる。 3. 炎症巣の構造と浸潤細胞について説明できる。 4. 炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。 5. 急性炎症について説明できる。 6. 慢性炎症について説明できる。 7. 炎症の転帰について説明できる。 8. 炎症の名称と分類について説明できる。 [C-5-5)-①-⑤] 事前学習：スタンダード病理学 p110-141 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
10月20日(火) 2限(9:50～ 10:50)	口腔外科学分野 川井忠講師	<b>唾液腺疾患</b> 唾液腺疾患の症状、診断お よび治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明する。 2. 唾液腺の腫瘍性疾患を説明する。 3. 唾液腺の閉塞性を説明する。 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版P377 ～429を読み、疑問点を抽出しておくこと。
10月20日(火) 3限 (11:00～ 12:00)	小児歯科学・障 害者歯科学分野 森川和政教授	<b>小児歯科学3</b> <b>小児の歯髄処置</b> 乳歯および幼若永久歯に適 切な歯内療法を行うための 基本的事項を理解する。	1. 症状やエックス線画像から、診断を行い、 それにふさわしい処置法を選択できる。 [E-4-2)-④⑤] 事前学習：小児の歯内療法について教科書 に目を通して講義に臨むこと。
10月27日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態解析学分野 佐藤泰生講師	<b>必修対策：疾病の概念4</b> 病理学総論の疾病の概念 について理解する。	1. 内分泌障害について説明できる。 2. 染色体・遺伝子および発生の異常につい て説明できる。 3. 代謝障害について説明できる。 [C-5-1)、C-5-3)] ディスカッション方式の講義を行う。講義 の途中あるいは最後にクリッカーを活用し て学生の理解度を逐次確認する。 事前学習：スタンダード病理学 p64-71、 p190-213、p216-241を読み、疑問点を抽出 しておくこと。(60分を要する)
10月27日(火) 2限(9:50～ 10:50)	細胞情報科学分 野 帖佐直幸准教授	<b>骨の生化学</b> 骨リモデリングのメカニ ズムについて理解する。	1. 骨吸収因子による骨芽細胞を介した破骨 細胞の分化と成熟について説明できる。 2. 破骨細胞による骨吸収を分子レベルで説 明できる。 3. 骨形成や骨吸収と体内カルシウム動態と の関連性について理解する。 [E-2-2)-⑤⑥] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で 調べて講義に臨むこと。
10月27日(火) 3限(11:00～ 12:00)	予防歯科学分野 岸光男教授	<b>予防歯科学3</b> <b>地域保健総論</b> 地域保健の基本概念と根 幹となる法規を学ぶこと で地域保健の意義を理解 することができる。	1. プライマリヘルスケアとヘルスプロモー ションの違いを説明できる。 2. ヘルスプロモーションの方略を列挙できる。 3. 健康増進法を概説できる。 4. 地域保健法を概説できる。 [A-7-1)-④、B-2-2)-①、B-3-1)-①～④] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資 料の該当範囲を通読しておくこと。 講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月10日(火) 1限(8:40～ 9:40)	摂食嚥下・口腔 リハビリテーシ ョン学分野 小林琢也教授	<b>摂食嚥下リハビリテーシ ョン②</b> 摂食嚥下障害に対する治 療計画と訓練法について 理解する。	1. 摂食嚥下障害に対するリハビリテーシ ョン計画を立案できる。 2. 各症例における摂食嚥下障害に対する訓 練法について説明できる。 [E-2-4)-(11)-②、E-5-1)-⑤～⑩] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビ リテーション学 p 157～165、167～181 を読 み、講義に臨むこと。
11月10日(火) 2限(9:50～ 10:50)	小児歯科学・障 害者歯科学分野 久慈昭慶准教授	<b>障がい者 2</b> 各論復習	1. 各障害者(知的障害、自閉スペクトラム障 害、脳性麻痺、てんかん、筋ジストロフィ ーなど)の知識を確認し理解する。 [E-5-2)-①～④、E-1-4)-(4)]
11月10日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯周療法学分野 鈴木啓太助教	<b>歯周病学 4 (要点 4)</b> 歯周領域に求められる演 習問題を理解し、歯周外科 を中心に要点を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明 できる。 2. 歯周領域の演習問題が理解できる。 3. 歯周領域の要点を修得できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-(3)-①～③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨 床歯周病学2版で復習しておく。
11月10日(火) 4限(13:00～ 14:00)	予防歯科学分野 佐藤俊郎助教	<b>予防歯科学 4</b> <b>地域保健各論</b> 異なる対象集団に対する 保健介入方法を学ぶこと で、地域保健に関する応用 性を身につけることがで きる。	1. 母子保健を概説できる。 2. 学校保健を概説できる。 3. 産業保健を概説できる。 [A-7-1)-①③、B-2-2)-①] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料 の該当範囲を通読しておくこと。 講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
11月10日(火) 5限(14:10～ 15:10)	病態生理学分野 黒瀬雅之准教授	<b>発声・構音</b> 発声器官と構音について 理解する。	1. 喉頭原音を説明できる。 2. 言語音の形成機序を説明できる。 3. 口腔疾患と構音障害との関連について説 明できる。 [E-2-2)-⑧] 事前学習：発声・構音について、2年次の生 理学で使用したレジメ、講義ノートに目を通 して講義に臨むこと。
11月10日(火) 6限(15:20～ 16:20)	補綴・インプラ ント学分野 近藤尚知教授	<b>有床義歯学 4</b> 有床義歯領域に必要な知 識を習得することができる。	1. 有床義歯の知識を再確認し、基本的な内 容について説明できる。 2. 義歯の製作術式を説明できる。 [E-3-4)-(2)-①～⑭] 事前学習：義歯製作における精密印象採得につ いて、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジ メ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月17日(火) 1限(8:40～ 9:40)	関連医学分野 千葉俊美教授	<b>内科学 I</b> <b>循環器疾患、悪性新生 物・呼吸器疾患</b> 代表的な循環器疾患、悪 性新生物、呼吸器疾患つ いて理解する。	1. 代表的な循環器疾患、悪性新生物、呼吸器 疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料お よび教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月17日(火) 2限(9:50～ 10:50)	発生物学・再生 医学分野 原田英光教授	<b>歯の発生からみた歯の構造の正常と異常Ⅱ</b> 歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようになる。歯の先天性疾患について説明できるようになる。	1. 歯を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯冠の形態, エナメル質形成不全症, 象牙質形成不全症などの遺伝子疾患に関わる病因について説明できる。 3. 歯根の発生と歯根の形態異常について説明できる。 [E-2-3)-(1)、E-2-4)-(1)-①、E-2-4)-(10)-⑤、E-3-1)-①、E-3-2)-①、E-4-2)-①] 事前学習：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学 4 版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。
11月17日(火) 3限(11:00～ 12:00)	口腔外科学分野 川井忠講師	<b>先天異常および後天異常</b> 顎顔面口腔領域に異常をきたす先天異常・後天異常の症状、診断、治療法を習得する。	1. 先天異常・後天異常の概念と成因について説明する。 2. 唇顎口蓋裂を説明する。 3. 顎変形症を説明する。 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版 P39～84、596～650 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
11月17日(火) 4限(13:00～ 14:00)	補綴・インプラント学分野 畠山航助教	<b>冠橋義歯学 4</b> <b>CAD/CAM 冠と光学印象</b> CAD/CAM 冠と光学印象について理解する	1. CAD/CAM 冠の製作法を理解する。 2. 光学印象を理解する。 [E-3-4)-(1)-①～⑬] ディスクッション方式を取り入れた講義を行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月17日(火) 5限(14:10～ 15:10)	補綴・インプラント学分野 高藤恭子助教	<b>口腔インプラント学 3</b> インプラントのメンテナンスと合併症について理解する。	1. インプラントメンテナンスの重要性と方法を理解する。 2. インプラント治療の合併症について理解する。 [E-3-4)-(3)-④⑦] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
11月17日(火) 6限(15:20～ 16:20)	機能形態学分野 藤原尚樹教授	<b>唾液腺の構造と位置</b> 唾液腺（特に大唾液腺）の位置と支配神経を理解する。	1. 大唾液腺・小唾液腺の位置と付近にある解剖学的構造について説明できる。 2. 唾液腺の分泌を調節する支配神経について説明できる。 3. 唾液腺の支配神経の走行と障害を関連づけて説明できる。 [E-2-2)-⑥] 事前学習：唾液腺の解剖学的特徴についてまとめておくこと。DESS 演習または WebClass に提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
11月24日(火) 1限(8:40～ 9:40)	小児歯科学・障害者歯科学分野 森川和政教授	<b>小児歯科学 4</b> <b>咬合誘導（保険処置）</b> 保険の適応と処置法について理解する。	1. 年齢や欠損状態に応じた保険装置の選択ができる。 [E-4-2)-⑨] 事前学習：静的咬合誘導法について教科書に目を通して講義に臨むこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月24日(火) 2限(9:50～ 10:50)	予防歯科学分野 佐藤俊郎助教	<b>予防歯科学5</b> <b>社会保障・介護保険</b> 社会保障制度の概要と介護保険制度の仕組みを学ぶことで、医療の公平な分配の概念を身につけることができる。	1. 社会保障の種類を列挙できる。 2. 医療保険の仕組みを説明できる。 3. 公費負担医療を列挙できる。 4. 介護保険給付と地域支援事業の違いを説明できる。 [B-2-2)-①～⑤⑧] 事前学習：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。
11月24日(火) 3限(11:00～ 12:00)	細胞情報科学分野 帖佐直幸准教授	<b>癌の生化学</b> 発癌、転移・浸潤のメカニズムについて理解する。	1. 癌遺伝子や癌抑制遺伝子の機能を説明できる。 2. 癌の悪性化と多段階発癌を説明できる。 3. 癌の転移や浸潤のメカニズムについて説明できる。 [C-5-6)-①②] 事前学習：到達目標の内容に関し教科書で調べて講義に臨むこと。
11月24日(火) 4限(13:00～ 14:00)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 歯内療法学3</b> <b>根尖性歯周炎</b>	1. 感染根管治療の治療を説明できる。 2. 感染根管治療に用いる道具を用意できる。 3. 根管の無菌化を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：感染根管治療について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬歯内治療学)で確認する。
11月24日(火) 5限(14:10～ 15:10)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 保存修復学3</b> <b>接着</b>	1. 接着技法について説明できる。 2. 症例に応じた修復法、接着技法を説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：コンポジットレジン修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
11月24日(火) 6限(15:20～ 16:20)	分子微生物学分野 下山佑講師	<b>ウイルス学</b> ウイルスの性状と感染経路、標的器官および感染症を理解する。	1. 主要な病原性ウイルスの性状・感染経路・標的器官および感染症を説明できる。 [C-3-1)-①②、E-2-4)-(9)-②] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。
12月1日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態解析学分野 佐藤泰生講師	<b>必修対策：疾病の概念5</b> 病理学総論の疾病の概念について理解する。	1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 良性腫瘍の組織型について説明できる。 (乳頭腫・腺腫・線維腫・脂肪腫・骨腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・神経鞘腫・色素性母斑) 5. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。 (扁平上皮癌・紡錘形細胞癌・腺癌・軟骨肉腫・骨肉腫・平滑筋肉腫・多発性骨髄腫・悪性黒色腫) [C-5-6)-①～③] 事前学習：スタンダード病理学 p244-258 を読み、疑問点を抽出しておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月1日(火) 2限(9:50～ 10:50)	口腔外科学分野 山田浩之教授	<b>口腔粘膜疾患</b> 口腔粘膜疾患の症状、診 断、治療法を習得する。	1. 口内炎やアフタの症状、治療法について 説明する。 2. 水疱性疾患、ウイルス性疾患の症状、治療 法について説明する。 3. 角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾 患の症状について説明する。 事前学習:口腔外科学第3版医歯薬出版P163 ～182を読み、疑問点を抽出しておくこと。
12月1日(火) 3限(11:00～ 12:00)	補綴・インプラ ント学分野 田邊憲昌准教授	<b>冠橋義歯学 5</b> <b>咬合器の使用法と下顎運 動</b> 咬合器の使用法と下顎運 動について理解する。	1. 咬合器の分類を理解する。 2. 下顎運動を理解する。 [E-3-4)-(1)-①～⑬] ディスカッション方式を取り入れた講義を 行う。講義前後に講義内容に準じる領域の DESS 演習を行うこと。 事前学習:クラウン・ブリッジ補綴学で使用 したレジメ、講義ノートに目を通して講義 に臨むこと。
12月1日(火) 4限(13:00～ 14:00)	歯科放射線学分 野 佐藤仁助教	<b>画像診断のまとめ 1</b> 口腔領域の画像診断につ いて修得する。	1. 以下の疾患の画像所見について説明する。 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性囊 胞、非歯原性嚢胞、上顎洞疾患、口腔領 域の悪性腫瘍、口腔領域の炎症、骨折、 唾液腺疾患、顎関節症、骨系統新患 [E-2-4)-(2)-①③④、E-2-4)-(5)-①②、 E-2-4)-(6)-①②、E-2-4)-(7)-①②、 E-2-4)-(8)-②～⑦、E-2-4)-(10)-⑤～⑨] 事前学習:それぞれの疾患の分類、特徴を理 解しまとめておく。
12月1日(火) 5限(15:20～ 16:20)	歯科矯正学分野 佐藤和朗教授	<b>歯科矯正学 4</b> <b>矯正治療のフォースシ ステム</b>	1. 矯正力の4Dについて説明できる。 2. 矯正力と顎整形力について説明できる。 3. マルチブラケット装置における矯正力に ついて説明できる。 [E-4-1-④⑤⑥] 事前学習:歯科矯正学 p225～237を読み、 疑問点を抽出しておくこと。
12月8日(火) 1限(8:40～ 9:40)	病態制御学分野 田村晴希講師	<b>抗菌薬</b> 歯科診療を行う上で必要 な抗菌薬を理解する。	1. 抗菌薬の分類、作用機序と副作用を説明 できる。 2. 適切な抗菌薬の使用を説明できる。 [C-6-2)-②、C-6-4)-①②] 事前学習課題:抗菌薬の分類、作用機序と副 作用についてまとめておくこと。
12月8日(火) 2限(9:50～ 10:50)	口腔外科学分野 山田浩之教授	<b>歯原性腫瘍</b> 歯原性腫瘍の症状、診断、 治療法を習得する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍を列挙 し、その特徴について説明する。 2. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍の症状、 治療法について説明する。 事前学習:口腔外科学第3版医歯薬出版P199 ～226を読み、疑問点を抽出しておくこと。
12月8日(火) 3限(11:00～ 12:00)	小児歯科学・障 害者歯科学分野 久慈昭慶准教授	<b>障がい者 3</b> <b>症候群復習</b>	1. 各種症候群の知識を復習し理解する。 [E-2-4)-(10)-⑤⑥]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月8日(火) 4限(13:00～ 14:00)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	齲蝕 歯内療法学4 偶発症、外科的歯内療法	1. 炎症の病態を説明できる。 2. 歯髄腔の解剖学的特徴を説明できる。 3. 麻酔抜髄法の術式を説明できる。 [E-3-2)、E-3-3)-(2)] 事前学習：歯髄炎について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬歯内治療学)にて確認する。
12月8日(火) 5限(14:10～ 15:10)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	齲蝕 保存修復学4 直接修復(コンポジットレジン修復)	1. コンポジットレジン修復の手順について説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：コンポジットレジン修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
12月8日(火) 6限(15:20～ 16:20)	外国語学科英語 分野 James Hobbs 教授	Chair side conversation 3 英語圏の患者に対し歯科治療を行う際に必要なコミュニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーションが取れる。 [A-7-2)-①]
12月15日(火) 1限(8:40～ 9:40)	医療工学講座 武本真治教授	義歯用材料 歯科臨床に応用する義歯用材料について学ぶ。	1. 歯科臨床における義歯用材料の選択基準を説明できる。 2. 義歯用材料の種類を説明できる。 3. 義歯用材料の成分および性質を説明できる。 4. 義歯用材料の取り扱い上の注意点を説明できる。 [D-1-②、D-2-②] 事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。WebClassに掲載の講義要旨の空欄を講義開始までに補充する。
12月15日(火) 2限(9:50～ 10:50)	補綴・インプラント 学分野 菅原志帆助教	有床義歯学5 床義歯製作に必要な埋没・重合・研磨の方法を理解する。	1. 床義歯の埋没・重合・研磨の方法を説明出来る。 2. 埋没・重合・研磨の手順を説明出来る。 [E-3-4)-(2)-⑩、⑪] 事前学習：義歯製作における精密印象採得について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
12月15日(火) 3限(11:00～ 12:00)	関連医学分野 千葉俊美教授	内科学Ⅱ 消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患 代表的な消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患について理解する。	1. 代表的な消化器疾患、代謝・内分泌、血液疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料および教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。
12月15日 (火) 4限(13:00～ 14:00)	予防歯科学分野 岸光男教授	予防歯科学6 齲蝕の予防 齲蝕発生機序を学ぶことにより、個人のリスクに応じた齲蝕予防法を選択できるようになる。	1. 齲蝕のリスク要因を列挙できる。 2. 齲蝕のリスク評価法を列挙できる。 3. リスク要因と予防法を対応できる。 4. フッ化物による齲蝕予防の原理を説明できる。 [B-3-2)-①②⑤] 事前学習：3年時DTPの教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月15日(火) 6限(15:20～ 16:20)	外国語学科英語 分野 James Hobbs 教授	Chair side conversation 4 英語圏の患者に対し歯科治 療を行う際に必要なコミュ ニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①]
12月22日(火) 1限(8:40～ 9:40)	分子微生物学分野 下山佑講師	口腔細菌 口腔の正常フローラ、口腔 細菌の性状および病原因 子を学び、齶蝕・歯周疾患・ 歯内疾患の成立・発症機序 を理解する。	1. 口腔のニッチとその構成細菌について説 明できる。 2. 口腔病原微生物の特徴と病原因子につい て説明できる。 3. 齶蝕の成立機序について説明できる。 4. 歯周炎の成立機序について説明できる。 5. 歯内疾患の成立機序について説明できる。 [A-5-3)-①②、C-3-1)-①～③⑥、 E-1-4)-⑥⑧、E-2-4)-③-①、E-3-2)-①～⑤] 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物 学・免疫学に関連する問題について学習し ておくこと。
12月22日(火) 2限(9:50～ 10:50)	歯周療法学分野 滝沢尚希助教	歯周病学5(要点5) 歯周領域に求められる演 習問題を理解し、歯周外科 を中心に要点を理解する。	1. 歯周領域に求められる学力の水準を説明 できる。 2. 歯周領域の演習問題が理解できる。 3. 歯周領域の要点を修得できる。 [E-3-2)-①③④、E-3-3)-③-①～③] 事前学習：ザ・ペリオドントロジー3版、臨 床歯周病学2版で復習しておく。
12月22日(火) 3限(11:00～ 12:00)	法歯学・災害口 腔医学分野 熊谷章子准教授	ヒトの死 患者の終末期医療から死 亡診断、死別後の遺族対応 までを理解する。	1. 緩和ケアについて説明できる。 2. 終末期医療について説明できる。 3. 死亡診断ができる。 4. グリーフケアについて説明できる。 [A-1-1)-③、A-1-2)-①、C-5-7)-①] 事前学習：「法歯科医学」6～15頁を読み、 疑問点を抽出しておくこと。
12月22日(火) 4限(13:00～ 14:00)	歯科麻酔学分野 佐藤健一教授	歯科麻酔学4 全身麻酔の理論、気道確保 法を学ぶことで全身麻酔 を理解することができる。	1. 全身麻酔の理論を説明できる。 2. 吸入麻酔法を説明できる。 3. 麻酔導入法・麻酔維持・麻酔の覚醒を説 明できる。 4. 全身麻酔における気道確保法を説明できる。 [E-1-4)-④] 事前学習：臨床歯科麻酔学第5版 第7章を 読み、疑問点を抽出しておくこと。
12月22日(火) 5限(14:10～ 15:10)	歯科放射線学分野 佐藤仁助教	画像診断のまとめ2 口腔領域の画像診断につ いて修得する。	1. 以下の疾患の画像所見について説明する。 歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍、歯原性嚢胞、 非歯原性嚢胞、上顎洞疾患、口腔領域の悪 性腫瘍、口腔領域の炎症、骨折、唾液腺疾 患、顎関節症、骨系統新患 [E-2-4)-②-①③④、E-2-4)-⑤-①②、 E-2-4)-⑥-①②、E-2-4)-⑦-①②、 E-2-4)-⑧-②～⑦、E-2-4)-⑩-⑤～⑨] 事前学習：それぞれの疾患の分類、特徴を理 解しまとめておく。
12月22日(火) 6限(15:20～ 16:20)	外国語学科英語 分野 James Hobbs 教授	Chair side conversation 5 英語圏の患者に対し歯科治 療を行う際に必要なコミュ ニケーション力を習得する。	1. 英語で問診ができる。 2. 英語で治療内容を説明できる。 3. 英語で患者と必要なコミュニケーション が取れる。 [A-7-2)-①]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
1月12日(火) 1限(8:40～ 9:40)	機能形態学分野 藤原尚樹教授	印象採得に関わる解剖学 印象採得に必要な口腔内 の構造について理解する。	1. 印象採得に関連する口腔内あるいはそれを裏打ちする解剖学的構造について説明できる。 2. 口腔を構成する筋肉の付着部について説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔内の解剖学的特徴・側頭筋・咽頭の筋の走行についてまとめておくこと。DESS 演習またはWebClass に提示する歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。
1月12日(火) 2限(9:50～ 10:50)	歯科放射線学分野 泉澤充准教授	歯科放射線学 2 放射線治療 口腔癌の放射線治療について方法、適応に関する知識を修得する。	1. 口腔癌の放射線治療の方法と口腔の管理を修得する。 [E-1-2)-①～③、E-2-4)-(6)-③] 事前学習：頭頸部領域の放射線の分類、適応を理解しまとめておく
1月12日(火) 3限(11:00～ 12:00)	補綴・インプラント学分野 近藤尚知教授	口腔インプラント学 4 口腔インプラント領域に必要な知識を理解する。	1. インプラントの知識を再確認し、基本的な内容について説明できる。 2. インプラント治療の流れを説明できる。 [E-3-4)-(3)-①～⑦] 事前学習：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。
1月12日(火) 4限(13:00～ 14:00)	口腔外科学分野 川井忠講師	外傷 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、治療法および治癒過程を説明する。 2. 歯の損傷の種類と特徴、治療法および治癒過程を説明する。 3. 一般的な骨折の種類と特徴、治療法および治癒過程を説明する。 事前学習：口腔外科学第3版医歯薬出版 P85～124 を読み疑問点を抽出しておくこと。
1月12日(火) 5限(14:10～ 15:10)	小児歯科学・障害者歯科学分野 森川和政教授	小児歯科学 5 全身疾患を有する小児の治療 全身疾患を持つ小児の歯科治療について理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べるができる。 2. 小児科との係わり方を述べるができる。 [E-2-4)-(1)-①] 事前学習：全身疾患を有する小児の治療について教科書に目を通して講義に臨むこと。
1月12日(火) 6限(15:20～ 16:20)	歯科矯正学分野 佐藤和朗教授	歯科矯正学 5 矯正装置	1. 可撤/固定式矯正装置について説明できる。 2. 各種矯正装置の適用症について説明できる。 3. 各種矯正装置の効果について説明できる。 [E-4-1)-⑤⑥⑦] 事前学習：歯科矯正学 p215～262 を読み、疑問点を抽出しておくこと。
1月19日(火) 1限(8:40～ 9:40)	機能形態学分野 藤原尚樹教授	顎顔面領域の成長と骨折 に関わる頭蓋骨の解剖学 セファロ分析や顎骨骨折 に関係する頭蓋骨の構造 について理解する。	1. 頭蓋骨の構成と連結に関わる解剖学的構造について説明できる。 2. 上顎骨・下顎骨の構造的特徴と関連する筋の走行について説明できる。 3. 眼窩・鼻腔・口蓋・副鼻腔の構成にかかわる骨の特徴について説明できる。 [E-2-1)-②③] 事前学習：頭蓋を構成する骨とその連結・咀嚼筋の起始停止についてまとめておくこと。歯科医師国家試験の過去問から関連領域の問題を解き、必要な知識をまとめておくこと。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
1月19日(火) 2限(9:50～ 10:50)	関連医学分野 千葉俊美教授	<b>内科学Ⅲ 腎疾患、精神疾患</b> 代表的な腎疾患、精神疾患 ついて理解する。	1. 代表的な腎疾患、精神疾患について理解し説明できる。 [E-6-②] 事前学習：講義に関する内容を講義資料および教科書で確認し講義に臨むこと。 事後学習：講義に関する内容をまとめること。
1月19日(火) 3限(11:00～ 12:00)	歯科麻酔学分野 佐藤健一教授	<b>歯科麻酔学 5</b> 顎口腔領域の疼痛性および麻痺性疾患を学ぶことで疼痛管理の重要性を理解することができる。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 [E-1-4)-(3)] 事前学習：臨床歯科麻酔学第5版 第14章を読み、疑問点を抽出しておくこと。
1月19日(火) 4限(13:00～ 14:00)	摂食嚥下・口腔 リハビリテーシ ョン学分野 小林琢也教授	<b>摂食嚥下リハビリテーシ ョン③</b> 摂食嚥下障害に対する口腔ケア法と高齢者の栄養管理法について理解する。	1. 摂食嚥下障害患者の口腔健康管理を説明できる。 2. 摂食嚥下障害に対する栄養管理法について説明できる。 [E-2-4)-(11)-②、E-5-1)-④～⑩] 事前学習：歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 182～192 を読み、講義に臨むこと。
1月19日(火) 6限(15:20～ 16:20)	う蝕治療学分野 長谷部智之助教	<b>齲蝕 保存修復学 5 間接修復(インレー)</b>	1. メタルインレー修復の手順について説明できる。 2. 窩洞形成法について説明できる。 3. 症例に応じた修復法、接着技法を説明できる。 [E-3-3)-(1)-②⑤、E-5-1)-⑦] 事前学習：講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
1月19日(火) 7限(16:30～ 17:30)	医療工学講座 武本真治教授	<b>合着・接着用材料</b> 歯科用合着・接着用材料の種類、成分、硬化機構および性質について学ぶ。	1. 歯科用合着材の種類、成分、特徴を説明できる。 2. 歯科用接着材の種類、成分、特徴を説明できる。 3. 直接修復のためのボンディングシステムの成分を説明できる。 4. 合着、接着操作の手順を説明できる。 [D-2-⑦] DESS 演習の準備をしておくこと。 事前学習：2・3年次に使用した教科書(スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学)、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。講義中随時知識確認のための質問とフィードバックを行う。

## 2020 年度 5 年 DESS 演習（各自空き時間利用）

（必ずお試し演習で予習してから各演習に臨むこと）

臨床実地問題：4 月出題（各正答率 8 割以上で合格）

9 月末までに全て合格すること。（後期総合試験の受験資格、不合格の場合 5 月以降に再演習）

必修・一般問題：5 月出題（基礎演習・臨床演習、各正答率 8 割以上で合格）

翌年 1 月末までに全て合格すること。（後期総合試験の受験資格、不合格の場合 6 月以降に再演習）

## 2020 年度 5 年 DESS 最終演習（講義室演習）設定

（必ずお試し演習で予習してから講義室での演習に臨むこと）

時間（約 120 分）：総合講義試験終了後、午前 9 時 50 分～午前 12 時

実施日	出題数	必修（基礎・臨床）				臨床実地	
5 月 23 日（土）	177	修復Ⅰ (32)	修復Ⅱ (32)	歯内Ⅰ (26)	歯内Ⅱ (25)	歯周Ⅰ (31)	歯周Ⅱ (31)
6 月 27 日（土）	187	有床Ⅰ (34)	有床Ⅱ (34)	有床Ⅲ (34)	クラブⅠ (43)	クラブⅡ (42)	
7 月 25 日（土）	155	口外Ⅰ (31)	口外Ⅱ (31)	口外Ⅲ (31)	口外Ⅳ (31)	口外Ⅴ (31)	
8 月 22 日（土）	130	小児Ⅰ (40)	小児Ⅱ (40)	小児Ⅲ (40)	高齢者 (10)		
9 月 26 日（土）	150	矯正Ⅰ (43)	矯正Ⅱ (43)	放射線 (32)	麻酔 (32)		
11 月 28 日（土）	179	必基① (50)	必基② (50)	必基③ (44)	必基④ (35)		
12 月 26 日（土）	171	必基⑤ (40)	必基⑥ (40)	必臨① (45)	必臨② (46)		
1 月 23 日（土）	164	必臨③ (48)	必臨④ (47)	必臨⑤ (32)	必臨⑥ (37)		

最終演習の臨床実地問題（各正答率 8 割以上で合格）

翌年 1 月末までに全て合格すること。（後期総合試験の受験資格、不合格の場合再演習）

最終演習の必修問題（履修必須）

指定された演習日に必ず履修すること。（後期総合試験の受験資格）

### 必修問題の内訳：

必基①：解剖・組織・生理、必基②：細菌・薬理、必基③：生化・病理

必基④：理工・衛生Ⅰ、必基⑤：衛生Ⅱ、必基⑥：衛生Ⅲ

必臨①：修復・歯内・歯周、必臨②：有床・口外、必臨③：クラブⅠ・高齢者

必臨④：歯科放射線・歯科麻酔、必臨⑤：小児歯科、必臨⑥：矯正

## 週間復習試験日程

当該週の火曜日行われた講義内容に関する復習試験を以下の日程で実施する。

実施は原則として金曜日の8時限の17:30から18:30とする。

1	4月24日	8	6月19日	15	9月4日	22	11月24日	29	1月15日
2	5月1日	9	6月26日	16	9月15日	23	11月27日	30	1月22日
3	5月15日	10	7月3日	17	9月29日	24	12月4日		
4	5月22日	11	7月10日	18	10月6日	25	12月11日		
5	5月29日	12	7月17日	19	10月20日	26	12月18日		
6	6月5日	13	7月31日	20	10月27日	27	12月25日		
7	6月12日	14	8月21日	21	11月17日	28	1月8日		

## 月間復習試験日程

当該月の火曜日行われた全講義内容に関する復習試験を以下の日程で実施する。

実施は土曜日の1時限の8:40から9:40、または平日の講義が全て終了した後の時間帯（60分）とする。

1	5月23日	3	7月25日	5	9月26日	7	11月28日	9	1月23日
2	6月27日	4	8月22日	6	11月10日	8	12月26日		

## 成績評価方法

- ・定期試験は各科目を統合した総合試験とする。
- ・総合試験（前期、後期）を90%とし、同日受験総合試験（2回分）、週間および月間復習試験を10%として評価する。
  - \*前期総合試験と後期総合試験の点数配分 前期：後期＝40%：50%
  - \*判定基準は総合試験、週間および月間復習試験の合計が65%以上を合格とする。

## 総合試験の受験資格1（出席）

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる前期試験の受験資格を認める。

- ・4～7月の当該科目の出席（講義およびDESS最終演習）が5分の4以上であること
- ・4～7月に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・4～7月に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・同日受験総合試験（第6学年第1回総合試験）を受験していること

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる後期試験の受験資格を認める。

- ・8月～1月の当該科目の出席（講義およびDESS最終演習）が5分の4以上であること
- ・9～1月に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・8～1月に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・同日受験総合試験（第6学年第3回総合試験）を受験していること

## 総合試験の受験資格2（DESS演習および必修試験）

以下の条件をすべて満たした場合に、必修試験に係る前期試験の受験資格を認める。

- ・必修試験3回の成績が80%以上
  - \*上記各試験で不合格になったものは、再試験を受験し、前期試験前までに80%以上得点し合格することを原則とする。

以下の条件をすべて満たした場合に、DESS演習に係る後期試験の受験資格を認める。

- ・1月まで実施するDESS最終演習（講義室演習）及び基礎演習・臨床演習・臨床実地演習の成績が80%以上
  - \*上記各試験で不合格になったものは、再演習を受験し、後期試験前までに80%以上得点し合格することを原則とする。